

第26回 第二言語習得研究会(JASLA) 全国大会

写真:「伊達政宗公騎馬像」
仙台観光コンベンション協会提供

2015年12月19日(土)・20日(日)

会場：東北大学 川内北キャンパス（仙台市青葉区）→

共催：東北大学高度教養教育・学生支援機構 後援：公益社団法人日本語教育学会

参加費：学生3,000円・一般4,000円

（予稿集・ジャーナル代を含む ※事前申込不要）



大会プログラム1日目 12月19日(土)

《パネル・ディスカッション》 ※裏面に趣旨掲載

様々なアプローチの第二言語習得研究
—最新の研究動向と教育的示唆—

司会・ファシリテーター 向山 陽子(お茶の水女子大学)

「認知的アプローチ」小柳 かおる(上智大学)

「機能主義的アプローチ」中浜 優子(慶應義塾大学)

「社会文化的アプローチ」鈴木 渉(宮城教育大学)

《懇親会》 ※事前申込み制

大会プログラム2日目 12月20日(日)

《基調講演》 ※裏面に趣旨掲載

CLIL的要素を持った第二言語指導の効果

※CLIL: Content and Language Integrated Learning

村野井 仁（東北学院大学）

《口頭発表 9件》 《ポスター発表 10件》

大会詳細はJASLA HP (<http://jasla.sakura.ne.jp/>) →



仙台の情報はJASLA2015@仙台 (<http://jasla2015.blogspot.jp/>) →



写真:「光のページェント」仙台市観光交流課提供

大会1日目 12月19日(土)

《パネル・ディスカッション》

様々なアプローチの第二言語習得研究
－最新の研究動向と教育的示唆－

司会・ファシリテーター 向山 陽子(お茶の水女子大学)

「認知的アプローチ」 小柳 かおる(上智大学)

「機能主義的アプローチ」 中浜 優子(慶應義塾大学)

「社会文化的アプローチ」 鈴木 渉(宮城教育大学)

趣旨: 第二言語習得は非常に複雑なプロセスであり、多くの要因が関わっています。そのため、第二言語習得研究は言語学、心理学、社会学など様々な学問と関連する学際的な研究になっています。第二言語習得に関わる理論は数多くあり、また研究課題は多岐にわたっています。本パネルでは、認知的アプローチ、機能主義的アプローチ、社会文化的アプローチの研究に焦点を当て、各アプローチにおける最新の研究動向を紹介するとともに、研究課題や研究方法の違いなどについて議論します。

大会2日目 12月20日(日)

《基調講演》

CLIL的要素を持った第二言語指導の効果

村野井 仁 (東北学院大学)

趣旨: 第二言語(外国語を含む)教育において、学習者を社会的な存在(social agent)としてとらえ、意味のある言語活動を行うべきであるとする強い動きがある。さらに、第二言語指導は単に言語能力の発達を目指すのではなく、学習者の技能・知識・姿勢を育て、人間性の発達を目指すべきだという考え方もある(Byram, 1997, 2008など)。このような学習者観および指導観を実際の第二言語指導に反映させるための枠組みとして参考になるのが、1990年代からヨーロッパで盛んに実践され、研究されているCLIL(Content and Language Integrated Learning)である(Mehisto, Marsh & Frigols, 2008)。CLIL的要素を持った第二言語指導が日本においてどのように実践されうるのか、そしてその効果はどのように測るべきなのか論じてみたい。

大会詳細はJASLA HP (<http://jasla.sakura.ne.jp/>) →



仙台の情報はJASLA2015@仙台 (<http://jasla2015.blogspot.jp/>) →

